

教育・文化・スポーツ

ミライonのサービス内容について



野島 進吾 議員

平成31年11月末に開館予定の県立・市立一体型図書館「ミライon」に來館する市民や県民が受けられるサービスの内容について尋ねる。

答

新たなサービスとしては、ICタグによる蔵書管理システムを導入し、自動貸し出し機や予約本受け取りコーナーを設置するため、カウンターに並んで待つことなく、利用者自身で簡単に本の貸し出し処理ができるようになる。また、館内にWi-Fi環境を整備するため、持ち込んだパソコンでネット検索が可能になり、図書館の本とインターネット情報の両方で調べ物や学習ができるようになる。なお、一体型図書館となることで、蔵書数や専門書は格段に増え、閲覧席や学習スペースも充実したものとなる。

教育・文化・スポーツ

県立・市立一体型図書館のサービス計画



伊川 京子 議員

新図書館（ミライon）は県立図書館と市立図書館がそれぞれの役割と機能を持ち、県・市の職員が一体となって運営することになる。職員や図書館関係者の共通理解の基にスムーズな運営ができるよう、具体的なサービス内容や方策について示した図書館サービス計画の策定が必要だと考えるが、策定の予定はあるのか。

答

新図書館でのサービスの基本的な考えについては、平成26年7月に県と市で策定した「県立・大村市立一体型図書館及び郷土資料センター」（仮称）整備基本計画に掲載しているため、改めて策定する予定はないが、県・市が一緒になって統一した業務が行えるよう、必要と思われる業務マニュアルについては作成する。また、市民には、幅広い年齢の方にわかりやすいパンフレット形式のものを作成し、サービス内容について伝えたい。

教育・文化・スポーツ

電子教材の導入だけでは中途半端



村崎 浩史 議員

小中学校に導入して2年目の電子教材「eライブラリアドバンス」の活用状況はどうなっているのか。私は中学生にヒアリングしたが、浸透しているとは言い難い状況である。市教委には同教材を導入した責任があり、実態を把握するべきである。本事業を継続するならば、活用が進むように環境整備をするべきではないか。

答

活用実績を見ると、小学校では2・3月が多く、学年のまとめや復習としての活用、中学校では12月から2月が多く、入試対策としての活用があったと考えられる。eライブラリアドバンスをより活用しやすくするための教室などの整備については、今のところ考えていないが、よりよい活用の仕方について校長会等において協議をしていきたい。

教育・文化・スポーツ

学校給食の献立は守られるべき



村崎 浩史 議員

11月の学校給食において、12回も献立変更（品数の減など）がなされた。献立変更は、どのような決定過程を経て、市長は把握していたのか。予定通りの献立を実施した場合、どのくらいの費用が増えていたのか。主菜まで変更せざるを得ない状況になったら、一般財源から補助してでも学校給食を守るべきだと思うが、市長の見解について尋ねる。

答

献立については、学校の栄養士が作成し、校長会代表、調理業務受託者などで構成する学校給食研究会において検討・決定しており、市長まで決裁を仰いではない。また、給食費の収支については、11月分の献立を予定通り実施した場合、約310万円の不足が生じていた。また、不足分を一般財源で補填する考えはないが、近年、継続的に食材費が高騰していることなどから、根本的な給食のあり方を考えていかなければならない。

教育・文化・スポーツ

教育行政について



朝長 英美 議員

小学校の先生の発達障害児にかかる時間が増えると、ほかの子どもたちにかかる時間の不足や、学力向上への影響が懸念される。このため、小学校に補助員を増員することはできないか。また、中学校のクラブ活動のあり方について、県は、公立の中高に、運動部活動の休養日などを設けるよう、ガイドラインを策定した。この中で、中学校においては、週2日以上以上の休養日を設け、週16時間を超えないことが求められているが、実情はどのようになっているか。

答

小学校の補助員については、通常の学級に在籍する特別な教育的配慮を必要とする児童生徒が年々増加傾向にあるため、増員について毎年協議を行っている。また、中学校のクラブ活動については、部活動によっては週16時間を超える練習の実態がある。県のガイドラインの趣旨である、生徒のバランスのとれた生活と成長の確保、スポーツ障害の予防のみならず、教職員の負担軽減のためにも、本市でも積極的に取り組む。

教育・文化・スポーツ

歴史認識、 歴史教育の重要性



中瀬 昭隆 議員

歴史を紐解くことが将来への一歩である。天皇が「国民は宝」として国民を慈しむ歴史は世界一長く、国民と家族的な関係である。今日、「世のため、人のため」「己の心に問え」の理念が薄らいでいる。史実に基づいた歴史に学ぶことや、教科書の他に副読本の活用も必要と考える。21航空廠の軍属であった神近氏が書かれた大村の近代史も取り上げてよいのではないか。

答

自分の国や郷土の歴史について正しく理解することは、大変重要であると認識している。学校教育においては、学習指導要領等に基づき、地域や学校の実態、児童生徒の発達段階等を十分に考慮して教育を行う必要がある。授業で歴史的な事象を扱う場合は、それを捉える観点によって、恣意的な考察や判断に陥ることのないよう、さまざまな資料を適切に用い、多面的、多角的に考察し、公正に判断することが求められる。今後も適切な教育が行われるよう取り組んでいく。

都市整備

産直かやぜ前交差点を 四差路にする必要性



田中 秀和 議員

本会議一般質問の場でも度々取り上げ、また、現地周辺の萱瀬地区や竹松地区からも陳情が出されている産直かやぜ前の三差路交差点を四差路にする必要性について、もう結論を出すべきである。また、平成32年度には、都市計画道路見直しの時期も控えている。四差路にするのかしないのか、方向性はしっかりと持つべきと考えるがどうか。

答

産直かやぜ前交差点の四差路化については、今後、都市計画道路池田沖田線の全線開通を見据え、平成31年度から着手する都市計画道路の見直し作業の中で、新たな道路の計画について検討していく。



教育・文化・スポーツ

県立・市立一体型図書館の バス停設置について



小林 史政 議員

多くの県民市民から期待されている県立・市立一体型図書館(ミライon)は、平成31年1月の完成に向けて急ピッチで工事が進められている。駅前のバス停から図書館入り口までは、約100mの距離があり、裁判所前のバス停からは約220mの距離がある。年間の来館者が50万~60万人と想定される新図書館に新たなバス停を設置すべきと考えるが、どうか。

答

バス停の設置については、これまでも複数の議員からの提案があり、協議を行ってきた。ミライonの整備が進む中、高齢者や障害のある利用者など、バスを利用して来館される方の利便性向上のため、再度、県交通局や大村警察署など関係機関と協議を行い、新たなバス停を設置する方向となった。新たなバス停の設置は、一人でも多くの来館者を得ることや、ミライonのPRにつながるものと考えている。今後、バス停の設置位置や安全性の確保などについて、関係機関と早急に協議をしていく。